

## 多職種連携を学ぶ

「互いに、互いについて、互いから学ぶ」ことへの挑戦

企画・司会者	森脇 愛子（青山学院大学）
話題提供者	佐治信一郎（東京都立羽村特別支援学校）
	飛田 孝行（東京小児療育病院）
指定討論者	宮野 雄太（横浜国立大学教育学部附属特別支援学校）

KEY WORDS: 多職種連携協働 多職種連携教育 多職種コミュニティ

### 【企画趣旨：森脇愛子】

近年の発達障害児・者への発達支援は高度化・多様化し、また一人の対象者にかかわる専門職も、教育・医療・福祉などの領域を超えた多職種連携協働（IPW：Interprofessional Work）のなかで実施されている。いわば、複数の発達支援専門職の知識とスキルの“掛け算”が、対象者への支援効果となると考えられる。そのため、それぞれに専門的な役割を担う専門職も「自分の専門領域だけ」で、あるいは「自分が関わっている時間だけ」で事象や対象者を見るのではなく、異なる領域やアプローチを行う専門職の見立てや支援方法、あるいは発達支援に対する個人的な信念や経験値をも考慮に入れていくことが、連携を強化し、支援効果を最大化することに繋がる。

ところが、我が国では各専門職の養成は職種独立的なカリキュラムを基盤としており、同職種の徒弟／先輩・後輩関係のなかで、ある意味、職人技を伝授するような形式で行われるのが一般的である。そのため関連領域の他職種がどこでどんな仕事をしており、どのような視点で発達障害児・者や支援方法について学んできているかをお互いにほとんど知らないまま現場に出ることになる。そして就職した現場で、いわゆる“OJT”を通して初めて他の職種と交流する機会を持つことも珍しくない。自身の専門職としてのキャリアを始めるということは、同時に IPW のなかに身を置くことであり、他の職種との専門的に高度な情報交換や連絡調整役を任せられるといった苦労を経験する人も少なくないだろう。その点で、養成段階から、あるいは現職者にこそ、領域を超えて、多職種が「互いに、互いについて、互いから学ぶ（LEAEN with, about and from each other）」（WHO,2010）ことのできる機会や場所の必要性が高まるのではないかと考える。

では、私たち発達支援の専門職は、どこで、どのようにして多職種での学びの場や機会を得ることができるのだろうか。地域にある様々な機関や専門職に出会うこと、果敢に他の職種団体の研修会や学会に出向くこと、多職種の集うコミュニティに参加すること…などの様々な学びへの挑戦の仕方がある。できれば、自身の所属を飛び出し、自身の職種とは異なる領域に飛び込んでみることや、直接的には関わる機会の少ない専門職と知り合い、対象者について話したり、支援方法をともに学んだりすることができたとすれば、私たちの多職種連携の実践はどのように変化するのだろうか。対象者に還元できる有益な情報や結果に繋がる可能性を第一に期待するとともに、専門職である個人としてのスキルアップ、あるいは職能集団としてのボトムアップやネットワーク強化を実現するための、多職種連携の学びや学び方について、本シンポジウムでは議論したい。

### 【話題提供①：佐治 信一郎】特別支援学校教諭が多職種で学ぶ意義

特別支援学校教諭の立場から、多職種連携を学ぶということについて話題提供をさせていただく。

特別支援学校教諭が多職種連携に関わるスキルを学ぶことのメリットとしては、幅広い専門職の視点に触れることができる、職場内の随伴性から離れて、自身の支援を振り返ることができる、多職種と関わる中で自身の職域に対する理解を深められる等が考えられる。またそのようなメリットがあるにも関わらず、そのような学びの場に参加することに対する抵抗要因があることも事実である。メリット、抵抗要因の双方から特別支援学校教諭として多職種連携の学びに参加することについて、話題提供者の経験を参考にしながら考察していきたい。

### 【話題提供②：飛田孝行】「多職種で学ぶ」に至るプロセス～抵抗要因、促進要因、メリットの視点から～

対象者の「生活に根差した」発達支援は、様々な役割に応じた多職種「連携」が必要である。また、対象者の「らしさ」を生活で実現する支援には、多様な側面から対象者を捉え、アイディアを出し合っていく「多職種」連携が重要になると考える。

これまでの経験から、多職種連携による支援の実践には、関わる専門職の「多職種で学ぶ」機会や「連携を学ぶ」機会があるかどうか、影響を及ぼしていると感じている。発表者の主な専門領域は作業療法であるが、近年、参加する勉強会や研修会は、作業療法に関する会よりも、他の職種によって構成される会の方が、割合が多くなっている。「多職種で学ぶ」機会の増加は、臨床スキル、支援体制の構築、支援の実施など、多くの側面でメリットあり、さらには自分の専門性を高める事にも繋がっている。しかし、はじめから「多職種で学ぶ」に積極的であったわけではなかった。そうした経験も踏まえて、今回の話題提供では、「多職種で学ぶ」ことのメリット、抵抗要因、促進要因について考察する。さらに他職種の領域に立ち入る際の「流儀」や「マナー」についても考えてみたい。

### 【指定討論：宮野雄太】

多職種で学ぶことと、連携を学ぶことの意義が、それぞれどのようなことであるか、話題提供をもとに議論する。また、それぞれの学びを促進するにあたって、どのようなことが効果的であったか、さらにどのようなことが今後望まれるか議論する。

（文献）WHO（2010）専門職連携教育および連携医療のための行動の枠組み

（MORIWAKI Aiko, SAJI Shinichiro, TOBITA Takayuki, MIYANO Yuta）